

令和7年度第1回宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会 議事録

開催日時 : 令和8年2月19日(木) 14:00~15:30

開催場所 : 宗像市役所南館 南201B会議室

■出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
◎黒瀬 重幸	出	○大方 優子	出	土屋 潤	出
壹岐 貴寿	出	矢原 吉房	出	田中 久美子	欠
升谷 智子	出	園元 かをり	出	杉原 敏之	出
西 亮(代理 河野 寿浩)	出	井上 智史 (オブザーバー)	出		

◎印は会長、○印は副会長

第1号議案 宗像市歴史的風致維持向上計画の進捗評価について

① 評価軸②-2「重点区域における歴史的風致の維持及び向上に関する取組み(景観法)」

(第1号議案書 宗像市-3)

杉原委員

: 景観アドバイザーの具体的な指導内容はどういったものか。

→大島フェリーターミナル付近のがけ崩れ等の復旧において、コンクリートの吹付方法について周囲の色合いに配慮し、景観と経済性の観点からアドバイスをもらい、工事(設計)を進めていく。

② 評価軸②-3「重点区域における歴史的風致の維持及び向上に関する取組み(屋外広告物法)」

(第1号議案書 宗像市-4)

土屋委員

: 市内を移動すると結構目立つ看板があると感じる。市内パトロールや一斉除却を実施し除却数0件とのことだが指導実績が1件はどのようなものか

→パトロールは2日間にわたり実施。主に電柱にまかれた一時的な広告物(住宅や金融関係)を除却対象としているが実施時期には見られなかった。指導を行った1件は、旧玄海地域国道495号沿いにある老朽化した高さ7~8mの看板。安全管理上危険と判断され、補修または除却するよう指導中。前向きに検討いただいている状況

31 升谷委員

32 :宗像大社前にある元々ガソリンスタンドがあった場所に新たに店舗が営業している。目立  
33 つ場所であり歴史的風致の観点から規制がかかっているのではないかと思うが、どのよ  
34 うな状況か。

35 →詳細な状況は把握していないが、場所について開発に係る相談があったことは把握し  
36 ている。適切に状況を把握したうえで、屋外広告物条例や景観計画に対して規制がかかる  
37 場合は、所有者に説明を行う。

38

39 ③ 評価軸③-2「歴史的風致形成建造物等整備事業」

(第1号議案書 宗像市-6)

41 杉原委員

42 :織幡神社のイヌマキ天然林の災害復旧事業は、コンクリートで固めるイメージか

43 →天然林だが、県指定天然記念物のため、文化財サイドからの災害復旧。現状は、  
44 土砂撤去と大型土嚢による崩落面の押さえつけを予定。今後の豪雨懸念もあり、下  
45 部にある県の治山事業の施設跡と合わせ、事業担当部局と相談しながら測量設計・  
46 検討を行っている段階。

47

48 ④ 評価軸③-3「歴史風致等景観整備事業」

(第1号議案書 宗像市-7)

50 オブザーバー井上委員

51 :宗像大社周辺の無電柱化について、これを重点区域全体に広げる計画はあるか。

52 →無電柱化の拡大について、現在計画期間である令和9年度までは現行のままで進  
53 める。

54

55 ⑤ 評価軸③-5「まちなみ環境整備事業」

(第1号議案書 宗像市-9)

57 杉原委員

58 :住宅外壁の色彩誘導の基準はどうなっているか。

59 →宗像市景観計画にて、建築物の屋根や外壁、工作物に使用してよい色のマンセル  
60 値を定めている。それを確認したうえで景観の協議を行っている。

61

62 ⑥ 評価軸③-6「無形民俗文化財等調査支援等事業」

(第1号議案書 宗像市-10)

64 園元委員

65 :いい遺産プロジェクトの働きかけの結果はどうか。また、西鉄バスが撤退し公共バ  
66 スが減少することで来訪者が減るのではないかと懸念しているが市は、どのように

67 考えているか。  
68 →いい遺産プロジェクトについては、11月に世界遺産の所有自治体が一斉にクリーン  
69 アップ作戦（ごみ拾い等）を実施し、成果を持ち寄るという連携事業を行った。交  
70 通手段については、市は新しい代替交通手段を計画している。東郷駅からむなかた  
71 館、神湊を補完するルートや、鐘崎から赤間駅までの路線バス廃止区間もカバー  
72 し、来訪者の不便を最小限にするよう進めている。

73

74 ⑦ 評価軸④-1「文化財調査、指定、保存管理（活用）計画の策定」

75 (第1号議案書 宗像市-18)

76 杉原委員

77 :文化財の調査について、選定はリストに基づいているか、順番に行っているのか。

78 →調査対象は、過去に編纂した新修宗像市史のリストがベースにあるがそれだけで  
79 は、現地に入り込めないため、具体的に地域から悩み事や協力要請のアクションが  
80 あったところへ赴いている。お互いの信頼関係がないと詳細を教えていただけない  
81 ため。課題として、担い手の減少。市として、各祭りの団体を束ね情報交換の場を  
82 設け、団体同士が直接協力体制を築けるような課題解決の取り組みを実施してい  
83 る。

84

85 黒瀬会長

86 :第1号議案の審議と採決に入る。

87 異議がないことから、第1号議案は原案どおり可決する。